

やませみ 通信



<http://www.okitsu-yamasemi.net/>

(やませみは興津川の清流のシンボルです)

森林探検隊・楽しいシーソー遊び 樹木の伐採の話を実際に聞く



NO. 33

平成 23 年 3 月

目次

- 1 鹿の食害から守るへキサチューブ
- 2 みどり情報局静岡 (S-GIT) の活動
- 3 森林探検隊 ～森のゲームとコンニャクづくり体験～
- 4 「森林探検隊」に参加した感想
- 5 興津川クリーン作戦に参加して
- 6 大好きな興津川をきれいに
- 7 興津川の秘密発見 さかなと虫はもちろん、なぜか石ころも
- 9 矢作川研究所の視察・研修に参加して
- 11 平成 22 年度 静岡市興津川保全基金への寄附と感謝状の贈呈

再生紙を使用しています。

鹿の食害から守るヘキサチューブ 市民の森づくり

みどり情報局静岡 (S-GIT) 奥寺利充

植林を始めて十数年

市民の森に植林をはじめて十数年が経ち、最初に植えた杉、桧は間伐が必要になるほどに成長しました。この間、広葉樹も数多く植えました。針葉樹と広葉樹で構成される混交林の森になるのが理想の姿なのです。毎年地ごしらえをし、支柱を立て名札をつけて一本一本ていねいに植えてきました。

地ごしらえをして植林することの繰り返し



なかなか育たない広葉樹

しかし、広葉樹は期待に反してうまく育ってはいけません。自然に生えてくるカシなどは優勢に繁茂しているのに、ブナ、クヌギなどいろいろ植えましたがこの地に合わない植生なのか、成長が遅く、夏草に覆われて一緒に刈られてしまったこともたびたびです。また、あきらかに鹿によって、苗木の先端を食べられて枯れてしまった苗木も多数ありました。

苗木を植えただけではすぐに鹿のえさになる



鹿の食害から守るヘキサチューブ

いままでの苦い経験から、今年の植栽は対策を講じることにしました。苗木を野獣の食害や風雪からガードする目的で考案されたポリプロピレン製の保護筒、「ヘキサチューブ」を施すことにしました。販売メーカーであるハイトカルチャ(株)から無償で提供して頂き、4月3日の植栽の日に、25本の苗木にセッティングしました。樹種も苗木の大きさもいろいろ、桜、いろはもみじ、イチョウ、桃、などです。さて、その成果のほどが気にかかります。

新たな試みの防護チューブ



食害や暑さに負けず成長している

次に山へ登ったのは3ヶ月後の7月10日、下草刈りの日です。幸いに倒れたり飛ばされたりして破損した「ヘキサチューブ」はありませんでした。とても暑い夏でしたが、枝葉が筒の上からはみ出してよく育っています。一本一本調べてみたところ枯れていたのは一本だけでした。上々の結果と云えます。この先「ヘキサチューブ」の役目を終えるまでに成長できることを楽しみにしています。

名前付きで植えた樹木が頭を出している



みどり情報局静岡 (S-GIT) の活動

みどり情報局静岡 (S-GIT) 久米 歩

みどり情報局静岡と市民会議

みどり情報局静岡 (以下、S-GIT) の恒例事業としては、興津川保全市民会議に関しては『市民の森づくり』への指導協力、川のセミナー・興津川クリーン作戦・蛍鑑賞会・鮎釣りセミナーへの参加等があります。

その他、清水区内のハイキングコース整備事業 (月一回の保守管理) を通じて、市民が安心して歩ける自然遊歩道の確保等々が挙げられます。これらの事業は、元々S-GITが興津川流域の森林を守ることや水源涵養の為の活動を目的として設立されていることから、地元における森づくり団体としての側面を表していると言えます。

森づくりの「技術・技能」の普及活動

しかし、当会の昨今の活動は地元清水に止まらず、全国へと展開しています。それは、森づくりの為の『技術・技能』の普及活動です。日本の森林資源の豊かさは言うまでもありませんし、同時に森林整備を担う人々が減少していることも周知のことでしょう。ただ、死亡災害を含む重大事故は中々無くならないのが現状なのです。その中でも、立木の伐倒中に起きる事故が最も多いと言われています。

伐木での事故死の多発

さて、キコリを職業とする所謂プロと呼ばれる人々は、通常チェーンソーで木を伐ることがほとんどです。木を伐ることから仕事が始まるといっても過言ではないはずの人たちが、その作業中に事故を起すとは何とも恐ろしい話ではありますが、一体どうして事故は起きるのでしょうか？

技術・技能は十人十色

それは、基礎訓練の不足にひとつの原因を求められることができるでしょう。なぜなら、チェーンソーの動力であるエンジンの知識や正確な目立ての方法、物理法則に沿った伐倒方法等々、それらをまとめ、体系付けた全国共通の『技術・技能』は今まで存在せず、勿論それを満たす教育機関も皆無であるが故、十人十色の指導方法で以ってキコリ達は育て (?) られたからです。

伐木・造材のチェーンソーワークの安全研修を全国で開催

S-GITでは、全国でもこれらの問題にいち早く警鐘を鳴らしてきました。また、教育の要となる教本も作成しています。(全国林業改良普及協会出版、『伐木・造材のチェーンソーワーク』)

現在、この教本を礎として、全国各地でチェーンソーの安全研修会を開催しています。受講者もプロからボランティアまで幅広い層に好評で、全国共通と呼ぶに値する教本と基礎訓練の必要性が今はっきりしつつあります。

チェーンソーワークの教本



「技術・技能」の基礎力ををランク付け

また、身に付けた『技術・技能』を客観的に判断する為の審査機関として『日本森林管理技術・技能審査認定協会』を関係各団体と協力設立し、基礎力を測るために8段階にランクを分けて認定しています。(ランク3以上は学科試験と実技試験に合格しなければなりません)



森林探検隊 ～森のゲームとコンニャクづくり体験～

みどり情報局静岡（S-GIT） 白井久男

こんにゃく作り体験

今年も森林探検隊でこんにゃく作りを担当しました。去年は、こんにゃく芋の説明をする際、芋を少し切って親子参加者に少しなめてもらうつもりが、中に食べてしまった参加者がいました。これが大騒ぎになり、口のシビレが終わりまで残った人がいて申し訳なかったです。こんにゃく芋は山の暴れん坊のイノシシも食べないと言う、えごみと苦味があります。今年も少しなめてもらいましたが、やはりなかなかのシビレ味でしたね。

開会のあいさつと森の役割についての説明



こんなこんにゃく芋がぷるぷるのこんにゃくになる様子を子どもたちは大変興味をもってくれます。芋をすってから灰汁と一生懸命混ぜてくれたり、お団子にするのに慣れない手つきでにぎってくれたりしました。茹でてから一時間たって、やっとできたこんにゃくの味は、少し柔らかめのおいしいこんにゃくでした。

今日のお昼のこんにゃくづくりの手伝い



火起こし体験

子どもたちには、普段体験できない火を起し、沢水の清らかさ、山の空気の新鮮さを体験してもらいました。

これからも、森林に来ることが楽しくこちよく身近に感じてくれるとうれしいですね。

鳥の巣作りゲーム

山の中でのゲームでは、参加者のそれぞれが鳥の気持ちになって巣作りをしました。周りにある木の枝や葉、枯れ草などを持ち寄り丸くして居心地の良さそうな鳥の巣を作りました。

温かいイノシシ鍋

お昼のお弁当は、お母さん達を作ってくれたお弁当と一緒に温かいイノシシ鍋を竹の器でお腹いっぱい食べて大満足でした。

イノシシ鍋用の竹の器を作ってお昼の準備



ヒノキの大木の伐採

午後は、スギ・ヒノキ林に移動し、高さ約20メートルもあるスギの木をチェーンソーで伐採しました。その切った樹木を今度は参加者が指導員の手助けを得てチェーンソーを使って樹木の輪切りにしました。

輪切りは、根本、中間、先端部の三カ所を切り、それぞれの年輪の数を数えてみました。

「森林探検隊」に参加した感想

滝本耕太郎

ジャンボシーソーが楽しかった。

鷺巣由佳

木を切ったり、カラスの巣作りやこんにやく作りなどを見たり、体験したり、予想したりすることができて楽しかった。

周辺にある材料を集めてカラスの巣作り



千原慶子

トラックの荷台に乗ったことは初めてで驚きでした。イノシシの肉はくさみがなく、ほのかに甘みもあり、とてもおいしかったです。こんにやくを作ったりカラスの巣作りをしたりと自然の中での活動はとても楽しかったです。

切った樹木をチェーンソーで輪切りにした



森林探検隊参加者全員集合



荻野寿士

木こりの仕事が体験でき、いい経験をしました。

久しぶりに山に登り、子どもの頃を思い出しました。

池谷岳紀

しし汁は、おいしくてよかった。

こんにやくづくりや火おこしも楽しかった。

間伐を体験できてよかった。

田島寛大

今まで体験したことのない体験がいろいろできてよかった。

倒した樹木の年輪を数えて、何年生の木か調べた



興津川クリーン作戦に参加して

はごろもフーズ 松下 新

「興津川保全市民会議」の活動の一環として9月4日に興津川クリーン作戦に参加しました。当日会場には1,000名を越す参加者が集い、1時間ほどかけ興津川周辺の清掃を実施しました。私は今回で2回目の参加となります。早朝からの清掃はさすがらしく、私は運動公園から河口までの清掃範囲にて空缶やたばこの吸殻など、約1kgのゴミを拾いました。当日参加したグループの中には廃棄された自転車等の粗大ゴミを拾ったグループもあり、いろいろなゴミが捨てられているんだなと思いました。

興津川は鮎で有名な川です。特に静岡県では一番早く、鮎釣りが解禁となります。天然鮎に加えて年間50万匹の鮎が興津川へ放流されています。また、上流の和田島にある少年自然の家は、自然と触れ合える癒しの場所として多くの人に親しまれております。

今後も機会がありましたら、クリーン作戦に参加し、この豊かな自然をこれからもずっと守るという達成感を多くの人と共有していきたいと思えます。

興津川河口の砂浜のゴミがなくなりきれいになりました

興津川清掃回収ゴミ（分別回収）



バーベキューや流れ着いたゴミなど多く集まった



大好きな興津川をきれいに

静岡市立清水和田島小学校 五年 栗山幸恵

わたしは、一年生から、毎年、興津川クリーン作戦に参加しています。なぜなら、夏に川へ泳ぎに行った時にきたないと、気分が悪くなって、楽しくないからです。

今年の興津川クリーン作戦では、大きなごみはなかったけど、タバコのすいがらや空きカンなどの小さなごみがたくさんありました。

わたしは、きれいにしたいので、一生けん命に拾いました。終わったら、川はとてもきれいになりました。

わたしは、初めて参加した時から、「ごみを持ち帰ってください。」という看板があるのに、なぜ、みんなはごみを捨てて帰ってしまうのかなと思っていました。一人一人が気づいてごみを持ち帰れば、興津川はきたなくならずにすむと思います。

だから、まず、自分もごみを持ち帰って、興津川をよごさないようにしていきたいです。

また、ごみを捨てる人を見かけたら、持って帰るように、進んで声をかけたいと思います。

各会場毎に分担してクリーン作戦を展開



和田島会場は小学生から高齢者まで参加者多数



和田島会場はバーベキューや川遊びの人など多くの人たちが利用する場所です



興津川の秘密発見 さかなと虫はもちろん、なぜか石ころも

(社) 静岡県建築士会清水支部 木村精治
小川清貴

川の姿の変化

第5回から承元寺と黒川が川の生物採取ポイントとなり11年続いている。

10年一昔と言うが、「えっ！」と思うほど承元寺の川の様子もだいぶ変わった。

当時の写真を見ると一目瞭然。階段護岸まで興津川の水がきていたのだ。

第5回写真



第10回写真



平成22年8月28日(土)に第15回川のセミナーが行われた。

今年のテーマは「興津川の秘密発見 さかなと虫はもちろん、なぜか石ころも」興津川の特徴を示す要素だ。

清流興津川が単に見た目がきれいだけでなく、その特徴や背景を理解していくことが保全にもつながるからだ。

セミナーは午前中に承元寺と黒川の生物観察・採取、午後は流しソーメンを堪能後、石のアクティビティ、最後に生物等の観察・採取のまとめの3部構成。

生物担当の講師は東海大学名誉教授の永井先生と北野先生とゼミ軍団。石のアクティビティ講師は静岡サイエンスミュージアム研究会の坂田先生。

運営支援は興津川保全市民会議の協力委員と清流の都創造課のコラボレーションで行われた。

清水区役所ロビーに集合

清水区役所ロビーには、期待を膨らませる子どもたち37人。今年の参加者は小学4年生と6年生が中心だ。

オリエンテーション後、バスに乗り込みさらに期待は膨らむ。清流の歌のBGMがバスの中に流れるが、やや緊張した空気も見える。

承元寺に到着。川に入って生物採取

今年はテレビの取材クルーが待ち構えさらに緊張した様子だ。

川での虫捕りや魚捕りに挑戦すると、緊張から解放され目が輝く。

先生から網の扱い方の説明を受けたが、子どもにとっては足の動かし方と網の扱いがなかなか難しいようで、ぎこちない。

それでも、「とったぞー！」と急ぎ足で採取した虫を自慢げに持ってくる。嬉しさが顔から滲みだしている。

頼りになる北野ゼミ軍団

北野ゼミ軍団は強力な助っ人で、子どもたちも頼りにしているお兄さんたちだ。朝早くから神奈川キャンパスから駆けつけ、おそろいの青色シャツで、子どもたちだけでは採取が難しい部分をサポートしている。あっ！北野先生の顔が背中に。北野ゼミ軍団も進化している。

北野先生と軍団シャツ



承元寺と黒川の生物採取後、和田島少年自然の家へ移動して次のプログラムへ

流しソーメン

緑の絨毯が敷き詰められたような広場に恒例の流しソーメンの竹がモニュメントのように設置されている。子どもたちは急いでザックの中から、おわんとマイ箸を出し、竹の前に並ぶ。「まだ、ご飯を食べたあとからスタートだよ」の声も承知しているものの、絶好のポジション取りが始まっていた。

アンケートをみても、流しソーメンは人気が高い。普段やれない珍しさもあるが、清涼感と味がとても良い。

たかがソーメン、されど、ソーメン。

事業委員による準備



早く流れてこないかなー



石のアクティビティ

石のアクティビティには親も参加。石をケルンのように高く積んだり、グルーピングされた石の意図を探るクイズ、磁石にくっつく鉄分を含んだ石探しなど、楽しみながら石の特徴を坂田先生から学んだ。

親も童心に帰ったように楽しんでいたが、石のグルーピングの発想は、子どもたちにちょっと負けたかな？

坂田先生の石の説明



石のタワーづくり 大人グループも挑戦した



採取した生物を観察

セミナー最後は、永井先生と北野先生より川の状態、水質の特徴と生物との関係や魚などの種類と特徴をわかりやすくお話しいただいた。顕微鏡で見る川の虫の特徴は見たものしか分からない感動を与えてくれる。

このように毎年川のセミナーを行ってきたからわかることだが、10年前の水量や洲の状況が少しずつ変化している。この子供たちが成長し、再び興津川に戻ってきたときどうなっているのだろうか？

今年もうまく状況が伝わったのだろうかと思

いながらも、多くのスタッフに支えられながら、夏のセミナーの1日が終わった。

「先生、スタッフのみなさんありがとう」という、アンケートの感謝や川について理解したとの言葉の一言一言に不安と疲れが癒されていく。

川のセミナー終了認定証の授与



矢作川研究所の視察・研修に参加して

興津川保全市民会議 会員 永井 彰

豊田市へ

1月27日（木）に愛知県豊田市にある矢作川研究所への視察・研修があり、望月事業委員長はじめ総勢19名で参加した。当日は快晴に恵まれ、東名高速道路も渋滞なく、予定より早めに豊田市の中心部、市役所脇の矢作川研究所に着いた。

午前中は柴田所長の御挨拶の後、お昼までは矢作川の特徴やそこに住むアユなどの動植物について洲崎・山本両主任研究員から説明があった。事前に事務局から連絡をしてあったので、詳しいパンフレットや解説の資料と映像が用意されていた。これに沿って説明を聞き、さまざまな質疑応答があり、丁寧に答えて頂き理解を深めることができた。

豊田市矢作川研究所で映像を使いながら説明を聞く。中央はアユの話をする山本敏哉主任研究員、右は洲崎燈子氏



矢作川とは

この説明の概要をごく短く要約すると、矢作川は118km（興津川は27km）の長さの川で、県境から大部分は豊田市を流れ、下流で岡崎市を通して、三河湾にそそいでいる。興津川には1つもダムがないが、矢作川には途中に7つのダムがあり、それぞれのダム下では水量が減って安定し、増水が少なくなった結果、河川敷の状態が変わり、砂や砂利の河岸が縮小し、樹木や竹類が進出したり、外来生物のカワヒバリガイ・カワシオグサなどの大発生があり、アユの生態にも影響が出て、各方面からの矢作川調査が必要になった。

矢作川研究所の設立

このため多くの川に関係する団体が協議し1994年に矢作川研究所が設立された。この研究所は、川の自然環境の調査・水と緑のネットワークとしての川辺管理の在り方・水源の森林の在り方として森の健康診断などに取り組んでいることが紹介された。

また近自然工法として川岸をコンクリートで固めない古崩（ふっそ）プロジェクトについても映像入りで説明があった。釣り好きな人に関心が高いアユの生態についてもダムの魚道を利用して自動的に遡上するアユの数を測定する方式などが紹介された。

児ノ口公園

午後は見学で、はじめに都会の真ん中に復元された児ノ口（ちごのくち）公園を見学した。2ヘクタールほどの広さで、元は神社と野球場だったところを雑木林や小川を整備し、近自然工法によって自然公園としたところである。

クヌギ・ムクノキなどが元気よく伸びている里山があり、遊歩道が整備され、子供たちが虫取り、魚採りもできる豊かな自然がマンションのそばにあるのに驚いている人が多かった。

ここには110種に及ぶ多様な植物が生育し、蝶の種類数は改修前の15種から31種に増加し、アオバズクの繁殖も毎年見られるという。やはり多様な自然に多様な生物がみられるので、都会に多い芝生の広場は多様性から見ると緑色の砂漠に等しいという言葉が耳に残った。

冬の日差しを受けながら、児ノ口（ちごのくち）公園で自然復元や維持管理について視察



まちなかの公園の周辺には高層の住宅団地が取り囲んでいるが、多様な植物や野鳥などが見られる



水辺には水鳥などが見られ、市民とのふれあいの場となっている



自然環境に配慮した川づくりについての説明をする宮田副所長（古川水辺公園）



大きな石をいくつも組み合わせて櫛の歯状に突出させた水制工（古川水辺公園）



古川水辺公園

次に古川（ふっそ）水辺公園に案内してもらった。ここは矢作川がゆるやかに右へ曲がっていると、増水時には河岸がえぐり取られる危険があったが、水流をゆるやかにするため左岸に大きな石をいくつも組み合わせて櫛の歯状に突出させた水制工を9本作り、水流を安定させることに成功したところである。この河川敷を整備してヤナギやエノキなどの林を作り、ゆるやかで、きれいな水とともに子供たちの川遊びや釣りに絶好の場所になっている。この工法は矢作川水制工として自然環境に配慮した川づくりの良いモデルとして、土木学会から高く評価されているという。

まとめ

これら2か所の見学を終えて、案内して頂いた宮田副所長らにお礼を述べて帰路に就いた。

豊田市という裕福な市がバックにいる上、研究所も活発に活動し、月刊パンフや研究報告・シンポジウムなどで川の自然環境保護を強くアピールしているのに深い感銘を受け、有意義な研修になったと思う。その上、帰路では望月事業委員長が撮影された興津川に棲むヤマセミのビデオを見せていただき、興津川の良さも再認識することができたのは収穫であった。

平成 22 年度 静岡市興津川保全基金への寄附と感謝状の贈呈

■中部地区 5 JA より寄附を頂きました

- 年月日 平成 22 年 5 月 13 日 (木)
- 寄附者 中部地区 5 JA : するが路、清水、静岡市、大井川、ハイナン農業協同組合
(清水農業協同組合代表理事組合長 望月眞佐志様より贈呈される)
- 概要 中部地区 5 JA が平成 21 年度下半期共同企画統一推進運動「JA エコ・スマイル キャンペーン」を実施。この活動の一環として対象商品の成約 1 口に対し 20 円を「静岡市興津川保全基金」と「川根本町水と森の環境保全基金」の水源整備基金へ寄附。
- 今回の寄附額 117,690 円

【清水副市長より感謝状を贈呈】



■清水入江女性学級より寄附を頂きました

- 年月日 平成 23 年 2 月 10 日 (木)
- 寄附者 清水入江女性学級
代表 山根 悦子様
〃 八重田貴子様
- 概要 清水入江女性学級が「入江生涯学習交流館まつり」に出展 (平成 22 年 11 月 14 日 (日)) し、得られた収益の一部を「静岡市興津川保全基金」に寄附。
- 同団体は静岡市興津川保全基金に寄附を、平成 8 年より 15 年にわたり行っており、寄附累計 125,000 円となりました。
- 今回の寄附額 10,000 円
- 興津川保全に対する長年のご協力に対して環境局長より感謝状を贈呈しました



興津川保全市民会議の会員になり、「清流の都」づくりのため、一緒に活動してください。

法人、団体等会員 3,000 円 / 年
個人会員 1,000 円 / 年

会員へは、「やませみ通信」他、年間を通じて各種イベント、企画の案内を送らせていただきます。
また、清流のうたの CD など特別価格にて提供します。

発行 興津川保全市民会議
編集 興津川保全市民会議 事業委員会
編集/アウト (株) 地域デザイン研究所 (望月)
発行日 平成 23 年 3 月

興津川保全市民会議事務局
(静岡市清流の都創造課内)
TEL. 054-221-1319
FAX. 054-205-2666



〒420-8602 静岡市葵区追手町 5-1

ホームページもご覧下さい <http://www.okitsu-yamasemi.net/>

編集委員からひとこと・・・

第 33 号は、活動に参加していただいた方々のレポートを中心に編集しました。お忙しい中ご協力を頂き大変ありがとうございました。興津川保全市民会議は平成 6 年に発足して 17 年目に入りました。今年も基金への寄附をして頂くなど、みなさんの支援に感謝しています。